



## 高齢者および障害者の方と一緒に住む人達のための火災予防対策

高齢者または障害を持つ方は、自宅で火災が発生した場合、傷害や致死のリスクが高くなります。これは通常、障害または疾病が個人の能力に影響している場合です。ご自身の状況について考えてください。視覚や聴覚の低下により、火災が発生しても気づくまで時間がかかりませんか？ 身体の動きが不自由な場合、自宅から安全に避難できると思いますか？ このパンフレットの情報または家庭での火災安全に関するパンフレットは、火災リスクを低減できるように支援するものです。

### 早期検知

高齢者または障害を持つ方が火災で死亡する事故は、機能している煙探知器がないか、あっても適切な場所に設置されていない場合に多く発生します。火災の早期検知は居住者全員にとって不可欠です。障害者の方と一緒に住んでいる場合には、きわめて重要です。

- **煙探知器を複数設置する**

煙探知器を1つ以上取り付けることで早期火災報知の効果が上がります。家での習慣について考えてみてください。いつもドアを閉めておく部屋はありますか？ 煙探知器はどこに設置されていますか？ タバコを吸う場合、タバコを吸うすべての部屋に煙探知器を設置していますか？ 時折薬やアルコール飲料を使用しますか？ 寝室から離れた部屋にある煙探知器が警報を鳴らしたとき、目が覚めますか、あるいは注意を引きますか？

- **煙探知器の相互連結**

煙探知器は、ワイヤレスまたは屋根の中の簡単な配線で相互連結できます。これは、1つの部屋で煙探知機が作動すると、すべての接続された煙探知機が作動するという意味です。

- **聴覚障害者および難聴者向けの煙探知器**

聴覚障害者または難聴者向けの煙探知器にはストロボ発光機能と振動パッドが装備されています。この煙探知器について、政府による資金援助を受ける資格のある場合があります。公共住宅に住んでいる場合は、地元の公共住宅事務所から詳細な情報を入手してください。

- **煙探知器と個人警報システムの連結**

煙探知器を個人警報システムと連結することで、煙探知器がアラームの起動時に個人警報システムに信号が送信されます。これらは現在、政府が資金援助する個人警報プログラムを通じて利用できません。

- **テスト**

煙探知器は毎月 1 回テストすることが非常に重要です。家族、友達または近所の人にテストの仕方を教えてもらうか、支援を求めてください。

## **火災発生時の対応**

MFB は体の不自由な人に対して、火を消そうとせず、すぐに避難するように勧めています。避難計画を作成しておけば、緊急事態が発生したときに日夜を問わず安全に避難することができます。家族の介護者、友達、または近所の人たちと練習し、改善できる箇所を特定してもらってください。次のことを確認してください：

- 出口に近い寝室を見つけます。
- 寝室を整理整頓し、ベッドの回りやドアの近くに何も置かないようにします。
- 夜は寝室の届きやすいところに移動補助装置を保管しておきます。

- 避難しやすいように、夜は各部屋のドアを開けておきます。
- 個人警報器がある場合はベッドに入っている間、着用してください。
- 自宅にいるときは玄関のドアやセキュリティスクリーンに鍵を入れておき、のドアには絶対にデッドロックをかけないでください。
- 避難する間、できるだけ身体を低くして煙を避けてください。
- 屋外に避難し、屋内に戻らないでください。
- 000 に電話をかけるか、または近所の人にダイヤルしてもらってください。

助けなしに自宅から避難できないときは次の指示に従ってください:

- ベッドの傍に電話を置いておき、スピードダイヤルを 000 に設定しておきます。
- 000 に電話をかけ、オペレーターに「FIRE (火事です)」と言います。担当者が出たら火が発生したので避難するために救助が必要であることを伝えます。
- 現在の居場所を伝えるまで電話を切らないでください。
- できる限り低く伏せて煙や熱を避けてください。
- 可能であれば、現在いる部屋のドアを閉めてドアの下の隙間をタオル、ベッドカバー、(または) 衣類で塞ぎ、煙が入ってこないようにします。

## その他のアドバイス

- 消防車や救急車がすぐに分かるように、家の番地がはっきり見えるようにしておいてください。
- 自宅で日常、動き回るのが難しい場合、緊急時に早く安全に避難するのも困難になります。理学療法士または作業療法士に相談して一人暮らしと安全に関するアドバイスを受けてください。
- 安全に自炊するなどの作業が困難なときは地元の行政機関か民間業者に支援を求めるか、食事の宅配をしてもらってください。
- 家の中に物をため込むと火災の危険性が高くなるほか、避難できなくなります。通路やドアの近くに物がたまらないようにしてください。
- 医療用酸素を使用している場合、必ず供給業者の安全指示に従ってください。これを怠った場合、火災の危険性が高まり、激しさが増大します。

## その他の情報：

- 作業療法/理学療法/政府が資金援助する個人警報器については地域保健衛生局にお問い合わせください
- 聴覚障害者および難聴者向けの煙探知器：Vicdeaf 9473 1111  
TTY 9473 1199 info@vicdeaf.com.au
- 介護施設：  
Yooralla Independent Living Centre 9666 4500  
yooralla@yooralla.com.au
- 視覚障害者向けのサービスおよび器具に関するお問い合わせ：  
Vision Australia 1300 84 74 66,  
info@visionaustralia.org.au
- 認知症患者との生活：  
Alzheimer's Australia Vic 9815 7800 alz@alzvic.asn.au
- 高齢者の方々向けの火災安全プレゼンテーション、煙探知器、ホーディング（ため込み）と火災リスクに関する情報をご希望の場合は、MFB Community Resilience – (03) 9665 4464 – commres@mfb.vic.gov.au にお問い合わせください。



**Metropolitan Fire Brigade (MFB) [www.mfb.vic.gov.au](http://www.mfb.vic.gov.au)**